

取組「〈考え、表現し、発信する力〉を培うライティング／キャリア支援」の概要および本シンポジウムの趣旨説明

中澤 務（関西大学 文学部 教授/ 取組責任者）

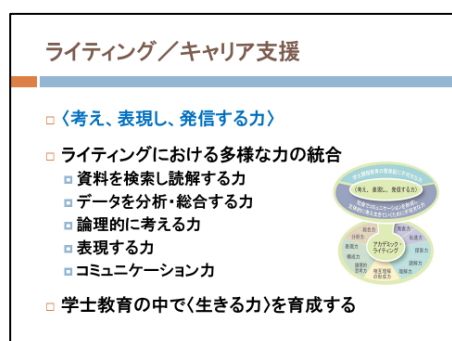
お手元にスライドの資料があるかと思いますが、そちらをご覧ください。皆さん、こんにちは。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、私から、今回のシンポジウムの趣旨と我々の取り組みの概要について、ごく簡単ではございますが、説明させていただきたいと思います。

大学間連携共同教育推進事業は、これからの日本で活躍できる人材を育成するために、さまざまな大学が相互に連携して教育改革の取り組みを行うというものでございます。関西大学は、津田塾大学とライティング支援ということで連携を行っております。平成24年度より開始し、現在その中間地点の3年目ということになります。

さて、我々が取り組んでおります「ライティング／キャリア支援」という言葉について、説明させていただきます。

我々が目指しているのは、単に大学の中でアカデミックなライティングの力を育成するということだけではありません。それを学生が大学の中で培い、そして社会に出たときにも生かしてもらおうというように形で支援を行っております。我々は、大学で育成を目指すべき、そのような知的能力ということで、〈考え、表現し、発信する力〉という言葉をつくりまして、この育成をライティング支援というものを通して幅広く行っております。



ここにありますように、ライティングという知的な営みを行う中で、育成されていくさまざまな力というものがございます。これを

通して、大学での学士課程教育の中で、社会で生きていく力を育成していってもらおうというのが我々の取り組みの趣旨です。本取り組みはこのような趣旨のもとで、5つの柱を立てて取り組みを行っております。

本シンポジウム、3年目のシンポジウムということですが、我々は2012年、2013年度と既に2回シンポジウムを行っております。

ここにその題が示されておりますけれども、これまで2年間で行ってきたシンポジウムは、主に大学のラ

イティングセンターというものをいかに整備して、その中でいかに有効な支援を行っていくかということを実践して実施いたしました。

本年度、2014年度に関しましては、取り組みの中間地点ということで、本取り組みの最大の特徴であります社会との連携、社会に出て生きる力ということに焦点を当てまして、社会との双方向的な連携を、どのようにして実現していったらいいのか、そして、その際に我々が開発しておりますような支援ツール（今回は主にeポートフォリオということを重点的に取り扱いたいと考えておりますけれども、それ以外にも、評価指標等さまざまなツールを我々はつくっております）を、いかに有効に活用していくかとい

取組の全体像

取組の五つの柱

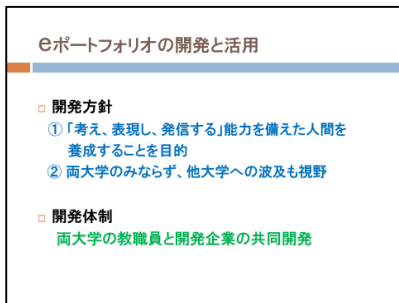
- ① ライティングセンターの充実
- ② eポートフォリオの開発
- ③ 評価指標の確立
- ④ カリキュラムとの連動
- ⑤ 社会との連携

本シンポジウムの課題

- 2012年度シンポジウム
ライティングセンター：日本の現状と課題
- 2013年度シンポジウム
日本の大学教育におけるライティングセンターの可能性
－米国の先進事例を踏まえて
- 2014年度シンポジウムの課題
ライティング／キャリア支援の更なる発展
① 社会との双方向的な連携の実現
② 支援ツールの活用(eポートフォリオなど)

うことをテーマにシンポジウムを開催したいということでございます。

さて、この後は、我々がこのような趣旨のもとで開発しております e ポートフォリオに関して、簡単な説明をさせていただきたいと思います。



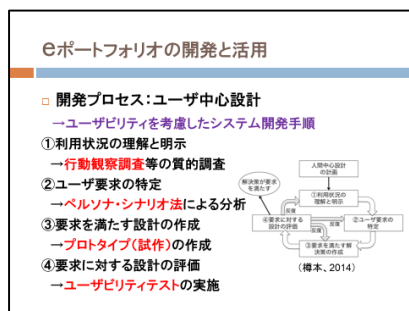
我々は、以上のようなコンセプトのもとに、これまではなかったような、ライティングを支援するための e ポートフォリオの開発に現在取り組んでおります。

我々は、これを T E C フォリオという名前で呼んでおりますけれども、現在、その開発を進めているところです。今申し上げましたく考え、表現し、発信する力>、これを e ポートフォリオというものを使って、うまく育成していこう。さらに、この e ポートフォリオをほかの大学でも使っていただいて、日本全体でこのような支援をしていこうということで進めております。

現在、それを開発中ですが、開発はここにございますような形で、ユーザー中心設計に基づいて実施しております。

この図に示されているとおり、まず、①から④の順に実施され、④の評価の結果、問題が発見された場合には

、①、②、③のいずれかに戻り、ユーザーの満足度が一定のレベルになるまで、かつコストが許される限り繰り返していくという形で進めております。本取



り組みでは、この人間中心設計のプロセスによりまして、プロトタイプを作成しシステム化することによって、ユーザーの満足度と利用度が高いシステム構築を目指しております。

現在、我々が考えております T E C フォリオの主要な機能というのは、次のとおりです。

コミュニティー、ポートフォリオ、ショーケースという 3 つの機能から成り立っております。コミュニティーに関しましては、授業、課外活動において議論する場となるように、議論を通して生成される学生の成果物を収集する場になります。ポートフォリオに関しては、集約された成果物を選択した上で、メンターとともにポートフォリオを形成し、学習活動を振り返る場となります。ショーケースに関しましては、ポートフォリオを他者に発信する場となります。ユーザーが設定した範囲内で相互参照できる場にするという予定でおります。

今後の開発ですけれども、このような開発プロセスにおいて、現在、プロトタイプの作成を行っております。今後はユーザーによる評価を行い、さらなる改善を行った後、システムの実装を予定しております。

先ほど申し上げましたように、この T E C フォリオは、関西大学、津田塾大学だけではなく、他大学への普及も視野に入れているため、日本の大学組織に所属するユーザーの要求事項に適した開発というものを現在進めております。

資料の残りに関しては参考資料で、この T E C フォリオの主要機能に対応したプロトタイプを提示しておりますので、ご覧ください。

このような形で学生が成果物をためていくとともに、そこに我々のほうで開発しております評価指標であるルーブリック等々を参照できるようなシステムを構想しています。

現在、我々はこのような形で取り組みをさらに発展させるために、e ポートフォリオ等のツール類を中心とした開発に取り組んでいるということで、今回は講師の先生方のお話を参考に、こうしたツール

シンポジウム議事録

シンポジウム「ライティング支援の未来像－社会との効果的な連携と支援ツールの活用－」

平成 26 年 11 月 8 日（土）14：00～17：30

類のさらなる充実のための材料にさせていただきました
いと考えております。

それでは、私の説明は以上にさせていただきます。

付記：その後、「TECフォリオ」は「TECsystem」に名
称を変更しました。